

新・近森オールソリハビリテーション病院

新たに移転する 近森オールソリハビリテーション病院の構想

近森オールソリハビリテーション病院

院長 鄭 明 守



開院当初

当院は2007年に松田病院から近森オールソリハビリテーション病院へと呼称を変え、在宅総合ケアセンター近森の施設跡に整形外科単科のリハビリテーション病院として開院しましたが、このたび、近森リハビリテーション病院の新築移転に伴い、その跡地へ移転することとなりました。

移転でハード面の問題を解消

開院当時から個室がないことや、酸素、吸引配管の未設置、各コンパートメントの狭さから、受け入れに一定の制限をせざるを得ない状況がありました。また開院当初は低迷していた病床利用率も近年は平均95%を超え、1日平均40名程度の外来患者さんにリハビリテーションを提供するためにはリハビリ室が手狭となってくる等、ハード面に多くの問題を抱えてきました。

今回の移転で、従来抱えてきたハード面の問題は解消することとなりました。

移転後の配置

移転後は1階を3室の外来診察室、および処置室、3階を一般病棟、地域包括ケア病棟、4階を回復期病棟、5階をリハビリ室として運営する予定です。

個室を設け、安全な入院生活を

各病棟には念願であった個室が設けられ、従来対応できなかった個室希望の患者さんの受け入れや、また感染性胃腸炎やインフルエンザをはじめとする伝染性の疾患に対する対応など、効率的な病棟運営に寄与す

るだけでなく、入院患者さんにとっても今まで以上に安全に入院生活を送っていただけるものと思います。

5階西館に余暇活動スペースを

また現施設の1階ロビーで行われている、コンサートなどの余暇活動を移転後も継続していけるように、5階西館にスペースをもうけました。

診療面での新展開

診療面においては、近年進歩がめざましい運動器への超音波検査機器の利用を積極的に進め、医師による診断や各関節注射、神経ブロックへの利用だけでなく、移転後はリハビリ室にも検査機器を常備し、各セラピストが自立的に損傷部位の把握や修復過程の確認、患者さん個人に応じたリハビリプログラムの設定等に活用していく予定です。

ハード面だけでなく診療面においても大きく飛躍するきっかけにしたいと考えています。

てい あきもり

近森オールソリハビリテーション病院

8F	スタッフエリア
7F	会議室、職員食堂、職員図書室
6F	—
5F	リハビリテーション室、工作室、談話室、研修室
4F	回復期病棟
3F	一般病棟、地域包括ケア病棟、薬局、DI室
2F	—
1F	受付、診察室、処置室、医療相談室、X線撮影室、医局、厨房

● 看護部 ● 看護職員募集

2016年度
近森会グループ

看護職員
採用試験

私たちと一緒に看護しませんか？



CHIKAMORI
HEALTH CARE GROUP

11 / 土
282 / 金
26

緩和ケアってなあに？

“がん”が見つかった時から「緩和ケア」
～一人で悩まないで、私たちがいます～

日時：平成27年11月16日（月）
～11月20日（金）

13時30分～15時30分

場所：外来センター6階

内容：日替りで各職種が緩和ケアの提供や
案内、相談対応を行います。興味
のある方はどうぞご参加下さい。

11月の歳時記

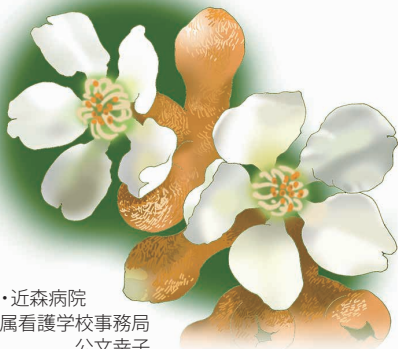
びわ

訪問看護ステーションちかもり
医事課 村田 佳菜子

6月頃に実が熟す
びわの花は、数少ない
寒い季節に咲く
花です。あまりに
地味に咲くため、
知っている方は少
ないと思います。

枝先に白くて小さ
な5弁花をたくさん
つけ、その香りと蜜に誘われて、色んな
虫たちが集まってきます。冬に咲いた
花は、やがて小さな実になり、初夏を
感じさせてくれる旬の果物となります。

むらた かなこ



絵・近森病院
附属看護学校事務局
公文幸子

● 医療今昔物語 ● 整形外科 6

腱板損傷と その治療について

近森病院整形外科
統括部長 衣笠 清人



肩関節でよく問題になる障害に、腱板損傷というのがあります。これには野球選手などのスポーツ傷害として起こる場合と中高年者の変性にもなった断裂として起こる場合があります。

腱板とは上腕骨頭を包み込むように付着している棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋の腱をひっくめて呼ぶ総称で肩を挙上するのにとても重要な働きをしています。

棘上筋腱が断裂することが最も多く、運動時痛や夜間痛が主な症状ですが、広範囲断裂になると肩の挙上ができなくなることもあります。運動療法や関節内注射などの保存療法を第一選択として行うことが多いのですが、効果が薄い場合は手術療法を考慮します。

以前は直視下に肩峰形成術と腱板修復術が行われていましたが、1990年代後半から徐々に鏡視下手術が導入されるようになりました。当院でも西井幸信部長が積極的に本法をおこなっています。

また従来はプロスポーツ選手の肩にメスを入れることは敬遠されていましたが、鏡視下手術（＝ARCR）の発展に伴って最近では手術に踏み切る選手も増えてまいりました。三角筋への侵襲が最小限ですみ、理論上は直視下と同等の修復が可能となっています。

しかし膝の前十字靭帯再建術（＝ACL）の場合と異なり、残念ながら完全なる復帰を果たしたプロ野球選手はまだいないようです。今後の課題といえるでしょう。

きぬがさ きよと

● ● ● 近森看護学校通信 6 ● ● ●

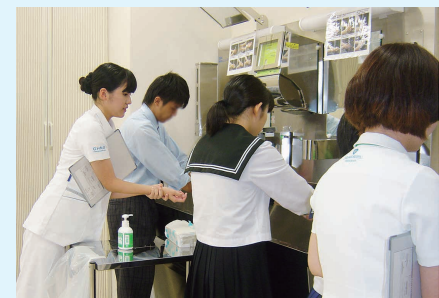
第2回オープンスクール開催報告



9月6日（日）に第2回オープンスクールを開催しました。今回も社会人経験のある学生と今春高校を卒業した学生2名に看護学生体験報告をしてもらいました。

参加者からは、看護技術体験や病院見学などを通して、本校での学校生活がより具体的にイメージできたと好評でした。

あいにくの雨天でしたが、総勢80



名の方に参加していただきました。次回の開催は11月1日（日）の予定です。
(和田廣政)

ハートある看護を 目指して

近森病院 5B 病棟
看護師長 佐藤 久美子



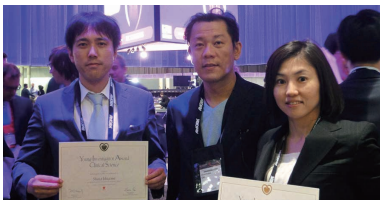
ハートとは辞書で調べると「心臓」
「心」、「感情」、「愛情」などが記載さ

れています。

近森卒業生のいま

平成 17 年度初期研修医 4

これからも、もっともっと！



岡山大学病院

心臓血管外科 小林 純子先生

「まだまだ。もっともっと！」日々
そう思いながら 10 年が経ちました。

どんな研修をしたら本当に心臓外
科医になれるのか、必死で考え選ば
せていただいた近森病院での初期研
修は本当にたくさんの方を教えて
いただき、私の大切な基礎となりま
した。その後の外科研修や大学院、
現在の心臓血管外科研修でも充実し
た日々を送らせていただいています。

この 10 年間は忙しく難しい課題
もありましたが、診療のみならず、
大きな研究を成し遂げたことや国内
外の学会での受賞など、貴重な経験
を沢山させていただきました。

これからは、臨床トレーニングは
勿論、よりいろいろな経験ができる
よう広い視野を持ち多くのことに挑
戦したいと思っています。今後とも
ご指導を宜しくお願い致します。

こばやし じゅんこ

私たちが勤務している 5B 病棟は
ハートセンター（循環器・心臓血管外
科）に属する一部署で、主に循環器の
患者さんが検査や治療目的で入院さ
れています。

私たち看護師は、24 時間交代勤務
を行いながら患者さんやそのご家族へ
「心＝ハート」をこめて、かかわりを
持ち、看護をつなげています。そのな
かで得た情報を、多職種（医師、リハ
ビリスタッフ、管理栄養士、薬剤師、
社会福祉士など）の人たちと共有し、
患者さんの目標を達成ができるよう連

携し、看護サイドから医療をつなげる
役割を果たしています。

しかし、検査や治療が立て込み忙し
いときは、つついハートを忘れそう
になることもあります。そのようなと
きは、スタッフ自身もハートケアに努
め、心を落ち着かせ、「患者さんのた
めに何ができるか、患者さんやご家族
はどのようにしてほしいのか」を多職
種とカンファレンスを行い、患者さん
やご家族とかかわりを持つよう頑張っ
ています。

まだまだ未熟な病棟ですが、今後も
患者さんが安心して自宅での生活を健
やかに送れるよう、私たち看護師は患
者さんやご家族の思いを大切にしてい
きたいと思っています。

ハート（循環器疾患の治療）&ハ
ート（心）ある看護を、病棟看護師をは
じめ、クラーク、歯科衛生士、アテン
ダントと共に、提供していきたいと考
えております。

さとう くみこ

「新蕎麦」にワクワク



近森 正幸

今年も新蕎麦がそろそろ出回る時
期になった。去年は蕎麦の出来がほん
とくに悪かった。だから、夏の終わり
ごろには具の入った種物の蕎麦を食
べていたので、ひたすら新蕎麦が入
るのを楽しみにしていた。

ヨーロッパの中世では、ワインを今
のように瓶にコルクの栓で密閉する
のではなく、大樽に詰めて少しずつ飲
んでいたのが、暑くなってワインが酸
化してすえてくると、大樽に香草など
を入れて我慢して飲んでた。だから

ワインも新酒が出てくるのを首を長
くして待っていた。

日本でも、江戸時代には初鰹を一本、
いまのお金にすると数十万円も出し
た。そんな江戸っ子の初物好きほどで
はないにしても、新モノはどこか華や
い気分させてくれる。新蕎麦の時
期になると、ソワソワするのは日本人
の血のせいだろうか。

北海道の旭川周辺の新蕎麦が届い
たとのことで、なにはさておき、9月
下旬の初打ちの日に食べに行った。そ
れから後、函館産が入ってきていたの
で、本州の北から南へと順次秋蕎麦を
味わえるのはもうすぐだ。

その日はソバガキとモリソバ、田舎
ソバの蕎麦尽くしをいただく。新蕎麦
はフレッシュななかにもほのかな甘
さがある、繊細な美味しさがある。
新蕎麦が入って、その美味しい蕎麦を
打っている亭主のワクワクした喜び
までもが食べ手に伝わってきて、それ
がなにより嬉しい。

理事長・ちかもり まさゆき

私の趣味

ドライブ

訪問看護ステーション
ラポールちかもり

看護師 佐藤 理佐



私の趣味はドライブです。といっても普通のドライブとは少し違い、車1台がやっと通れるような、あまり整備されていない狭い道路を探索するのが好きです。もともと田舎育ちのため、そんな道路が懐かしく感じるのかもしれません。

実はそんな道路でも「国道」と認定されているものもあり、「国道とは思えないような酷い道」のため「酷道」と呼ばれています。ちなみに県道は「険道」だそうです。

崖沿いでガードレールもない道も多いため、対向車が来るとひやひやしますが、そういった道を進んでいくと、きれいな川やとても見晴らしの良い場所などに会う事が多く、主要道路から逸れた道を見ると、ついその先の景色が気になってしまいます。「〇〇滝まで〇km」などの手書きの看板を見るとワクワクします。

先日は四国の酷道の代表、徳島市から四万十市にまでつながる国道439号線（通称ヨサク）のほんの一部をドライブしてきました。写真のようにとても国道とは思えないような道路が続きますが、道路沿いの川は驚くほど透き通っていて、一足先に赤く色づいたもみじやコスモスも見れて大満足でした。

次は「ヨサク」の全線走破と、UFOラインこと瓶ヶ森林道を目指したいと思います。 さとう りさ

病院薬局製剤について

近森病院薬剤部 見元 尚



薬剤師の仕事というと、調剤や服薬指導、情報提供、混注、などを思い出されるかもしれませんが、薬剤師は本来、薬を作り出すこと（製剤）が仕事なのです。

近年は製薬会社から販売される薬を使用しているのが現状ですが、製薬会社は多大な負担を負って開発製造するため、使用期限の短い薬、原料が安く儲からない薬、対象患者の少ない薬などの製剤化には消極的になる場合があります。こんな時、当該病院での使用を限定して製剤化するのが院内製剤です。

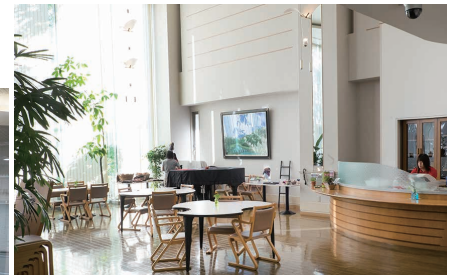
もとより人の身体に使用する製剤で

すので十分な知識と技術と安全性を確保することが必須です。そのためには製剤の成り立ちや技術を教育された薬剤師の存在が不可欠となります。院内製剤を参考に製薬会社が、新薬として製造、販売する場合があります。

今年、院内で製剤されていたメトヘモグロビン血症の治療薬が、1本約12万円の薬価で製薬会社から発売されました。当院では病棟薬剤師業務が花開いていますが、症例に応じて必要な製剤を考えることも薬剤師の役割であり、質の高い医療に貢献できる所だといえます。

みもと ひさし

売店オープンのお知らせ



▲近森オルソリハビリテーション病院「喫茶ウエーブ」
▼近森リハビリテーション病院「カフェim (アイム)」

職員旅行

沖縄、パラオ

▶パラオのミルクィウエイで泥パック！

▼ムームードレスを着て沖縄散歩



▼グラスボートに乗ってきます



榊原記念病院への転院道中記

近森病院臨床工学部 瀧渦 亮

8月25日(火)、東京都府中市にある榊原記念病院へ、患者さん転院搬送に循環器内科管根医師と共に向かいました。この患者さんは中部閉塞性肥大型心筋症と難治性心室頻拍で、当院にてICD(植え込み型除細動器)植え込

みをなされており、次なる治療のための転院でした。当日は台風15号の接近で、当初搭乗予定の飛行機が欠航になるほどの悪天候でした。

搭乗手続き中の出来事です。私は、主にペースメーカやICDなどが正常



作動するようにプログラムを使用して点検している技士です。急変に備えAED、簡易型生体モニタ、血圧計、ICDを操作する為のプログラムを抱えていました。私は黒いスーツ姿に医療機器のアンバランスで、菅根医師は薬剤と注射器を持参していたためにすんなり搭乗手続きが出来ませんでした。ゆうに1時間程を要しやつのことでなんとか搭乗させてもらえました。

羽田空港からは、ドクターカーで約1時間で病院に到着。ようやく患者さんを無事転院させることが出来ました。しかし帰りのことです。今度は行きと同様に、羽田空港で予定の飛行機に乗り遅れる程の、より激しく厳しい検査を1時間以上受けました。この時は「やっぱりまたか」という思いでしたが、なんとか最終便には乗せてもらえました。

今回、大変な転院でしたが、私の技術が少し患者さんのお役に立て、以前よりお元気そうな姿を当院で拝見した時、すべて吹き飛ばしてしまいました。

はまうず りょう

「PS通信」5

うちの師長さん

PS サポーター 2期生 松本 有里

当部署では、朝の送り出しの後、師長より抜き打ちで「さあ、今日は身だしなみチェックをしましょう!」と声がかかります。

皆で向き合い、髪:色はどうです

か。よし!顔:美しいですねえ。爪:伸びていませんか。ソックスは白ですか。名札は人生と同じく前向きですか。シューズ:〇〇さん、即購入!

最後に「笑顔は?満点!!」と私

たちを笑顔で患者さんの元に送り出してくれます。

そのおかげで、みんなが自然と身だしなみに意識がいくようになりました。

まつもと あり



～カレンダーのおしらせ～

昨年各部署に配布しましたPSカレンダーは、2016年度も製作することになり、現在準備中です。部署配布の予約受付中ですので、ぜひお近くのPSサポーターまで!

リレー エッセイ

スカッシュバレー

近森リハビリテーション病院

理学療法科 政岡 啓介



スカッシュバレーはご存知ですか。高知発祥のスポーツです。ボールはソフトバレーボール程度の柔らかさで、より小さいボールを使います。3人1チームで行います。2002年には高知県体でも行われました。

バレーボールと大きく違う点は、バドミントンのコート・ネットで行うことや、3人がそれぞれ一度ずつボールに触れて返球しなくてはいけないこと、柔らかいボールのため、軌道が曲がり読みにくい点です。

僕は以前、社会人のチームで軟式バレーボールを行っていましたが、人が集まらなかった際にスカッシュバレーをしていました。スカッシュ

バレーはボールが軟らかいので怪我のリスクが低く、6人いれば試合が出来るので気軽に始めることが出来ました。毎回ボールに触れるので運動量が多く、アタックはスピード感があり楽しかったです。いつしかスカッシュバレーがメインになりました。

他のチームの練習にも参加するようになると、20～30代中心で構成されているチームや高齢の方中心の



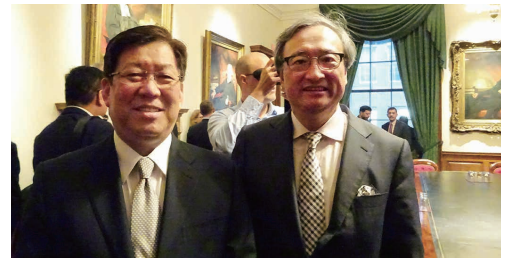
チームもあり、生涯スポーツとして幅広い世代が行っていることを知りました。大会に出ると若い世代のアタックの早さに驚き、年配の方のテクニックに驚き、なかなか勝ち上がることが出来ませんが、僕自身は今後も続けていきたいスポーツの一つになっています。高知発祥のスポーツとして有名なので興味のある方は一度仲間と一緒に練習に行ってみてはいかがでしょうか。

まさおか けいすけ



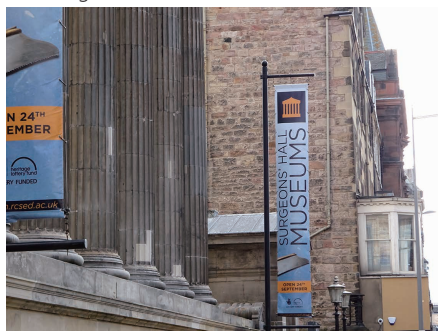
第25回世界心臓胸部外科学会に参加して

近森病院心臓血管外科
部長 入江 博之



例年の米国胸部外科学会、ヨーロッパ胸部心臓血管外科学会へ主に参加してきました。今回は表題の会、略語では WSCTS という学会に参加してきました。会場は英国、スコットランド地方のエジンバラという歴史ある街です。この街にはエジンバラ大学があり、その医学部、特に外科は古くからの歴史と伝統があります。

▼「Surgeons Hall」



下左端の写真にありますように、Surgeons Hall といわれる外科医がつくった施設があり、その一部は博物館にもなっていました。

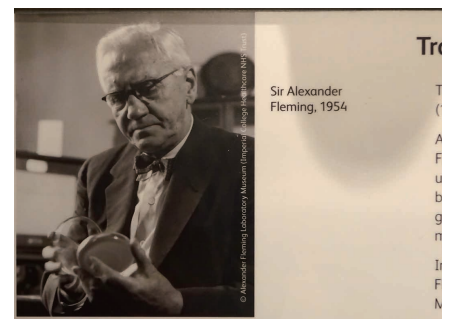
今回は、「心臓及び大動脈手術後の当日からのリハビリについて」の発表をしてきました。15分程度の発表です。とくに原稿は作らずスライドに合わせて話をするいつものスタイルを通しました。

英国の方が質問をされましたが、日本の心臓外科の状況は知らないけれども、みんなこんなに早いのかと驚いておられました。実際は日本でも当日からリハビリをしているところは、私の知る範囲ではありません。

ディナーでは国立循環器病センターの小林心臓外科部長ともお会いしまし

た。またロシアからのドクターとも知り合いになり、今度病院に來いと誘われました。

エジンバラ大学の近くにあるスコットランド博物館に行ってみると、そこにはペニシリンの発見者とされる Fleming 博士のノーベル賞メダルがありました。スコットランド出身とのこと



でした。街並みのみならず医学の歴史あふれる街を訪ねることが出来て幸いでした。

いりえ ひろゆき

ハッスル研修医 日々勉強、悪戦苦闘の毎日



初期研修医 橋本大輔

違う脳を使っているようで悪戦苦闘の毎日です。それでもたくさんの先生方、コメディカルスタッフの皆さんに支えられて充実した研修生活が送られています。少しでも明日の自分が成長しているよう、さらに丁寧に仕事に向かいたいと思っています。

この夏、よさこいチーム「ちかもり」に参加させていただきました。いろんな職種の方と話す機会ができ、夏が過ぎてからも職種を超えて皆さんにお世話になることが多く本当に参加させていただいて良かったです。

私は高知の西部、土佐清水市の出身で、将来は医師として地元へ貢献したいと考えています。かっこ悪くない臨床の力を、ここで学んでいきたいと思っています。今後とも厳しくご指導よろしくお願ひします。

はしもと だいすけ

お月見会

9月28日(月)(スーパームーンの日です)土佐バルで恒例のお月見会を行いました!



近森病院で働き始めて早くも6カ月が過ぎました。私はこれまで、循環器内科、外科、消化器内科と研修させていただいています。

私たちの研修生活はたくさんの患者さんにご協力いただいて成り立っています。病棟や外来で自分を見かけた方が読んでおられましたら、この場を借りて感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。大変お世話になりました。ありがとうございました。

日々勉強しなければならないことが多く、しかも受験生の頃とは全く

講師の医療法人清和会
島森万二副本部長

急性期病院との アライアンス連携の在り方

管理部長 寺田 文彦



9月11日（金）に医療法人清和会副本部長の島森万二氏をお迎えし、第144回地域医療講演会を、「急性期病院とのアライアンス連携の在り方」と題して行いました。熊本県での地域包括ケアの在り方をご講演いただき、院内外から94名の参加がありました。

同法人の平成とうや病院は2011年4月に開院、入院治療を中心に、総ベッド数110床のうち回復期リハビリ病棟56床、地域包括ケア病棟40床が殆どを占め、入院時のマネジメントが重要となっております。

同院の立ち位置について、「急性期病院の後方支援病院として開設し、リハビリを中心に在宅復帰に向けた医療を行うのが役目であり、熊本市南部地域の医療連携のなかで、急性期との密な連携をとっている」と説明されました。

急性期病院との連携会議を2012年

6月からスタートさせ、年2回、ケーススタディや転帰報告などを行っています。そのほか、両院の看護師やセラピスト、放射線技師などが共同で勉強会を開催する診療技術支援、済生会熊本病院での共同診療、看護師の向など人事交流を実施されています。

今後の検討課題として、

①リハビリをより充実させた
ポストアキュート機能

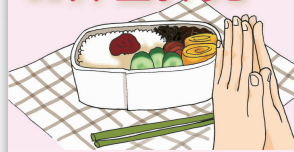
②後方連携病院との関係づくりを挙げられました。「機能分化が進むと連携なしにはありえない。地域ごと

にニーズは違うので、さまざまな連携のあり方を持つべき」と締めくくられました。

先日、高知県でも「地域医療構想策定ワーキング」が開催され、今後5,000床近くの病床機能を見直すこととなります。質の高い病院間でアウトカムを出す、先駆的な取り組みとして、おおいに学ぶべき具体策を示して頂きました。

てらだ ふみひこ

お弁当拝見 37 手作り弁当女子を目指し



近森オルソ
リハビリテーション病院
医事課 田井 日香莉



私のお弁当は母が作ってくれています。社会人になったら自分で作ろうと思っていましたが、結局未だに甘えてしまっています。毎日美味しいお弁当を作ってくれている母のこだわりは、「彩り重視。緑色はかかせない」だそうです。これからは手作り弁当女子を目指して、料理の腕もアップできるようにがんばります。 たい ひかり



開催告知

● 世界糖尿病デーイベント ●

日時：2015年11月13日（金）
9：00～12：00

場所：外来センター

内容：血糖測定や運動・食事療法などの相談

ワイン講座 ● 36

ぶどう品種を知り、個性を探る 黒ぶどう その13

イタリア篇 ネットピオーロ

高知も随分と涼しくなり、山海の幸が豊かに実り、赤ワインがより美味しく感じる季節の到来ですね。

駆け足でイタリア白ワインをご紹介してまいりましたが、今月からは赤ワイン。北の産地からご紹介させていただきます。

イタリアワインの王と称されるバローロやそれに並ぶバルバレスコの原料と

バローロ／ブルーノ・ジャコーザ／イタリア、ピエモンテ州●バローロ最上の造り手のひとり。部分的には最新技術も取り入れつつ、大樽での長期熟成というイタリア伝統の造りにこだわり、ネットピオーロの偉大な個性を丁寧に引き出したワインです。

なる品種です。イタリアワインを語るに至って、特に貴重で、バローロ地区ランゲの地から遠く離れた所で栽培するのは難しいとされ、栽培地域は限定されていて、ヴァッレ・ダオスタ州、ロンバルディア州、などイタリア北部で育てられている土着品種です。

名前の由来に諸説はありますが、収穫時期に霧が立ちこめることから「Nebbia（霧）」に由来すると言われています。

出来上がるワインのスタイルは、産地、生産者、品種のクローンにより異なりますが、酸味が特徴的で、タンニン（渋み）は中程度、ワインの真価を発揮するまで、数年の時間がかかりますが、熟成能力が非常に高く、古典的で長命なワインです。鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



ハビリ地域フェスティバル2015

10月17日(土)

楽しいイベントが盛りだくさんでした



10月17日秋晴れの土曜日、高知ハビリ自慢の芝生の中庭で、職員一同が心一つに臨む一大イベントです。

今年度、飲食出店は地域の方々や作業所、厨房委託業者にお願ひし、消防署の協力もいただき、ステージイベントには昨年に引き続き近所「うららか保育園児鼓笛隊」を頼み、放課後等デイサービススクールで児童に大人気の音楽療法士による音楽を楽しむ時間、高知リトルプレーヤーズシアターの歌とダンス、レモン早食いやアームレスリング等々、来場の方々や利用者も出場、大いに盛り上がりました。

私たちは社会福祉法人として社会に必須の施設に認められるよう日々の業務に臨んでいかなくてはならない、その強い意志をご挨拶とし、閉会しました。

外来患者数	18,188人
新入院患者数	930人
退院患者数	856人
近森病院(急性期)	
平均在院日数	15.82日
地域医療支援病院紹介率	64.65%
地域医療支援病院逆紹介率	139.61%
救急車搬入件数	535件
うち入院件数	278件
手術件数	399件
うち手術室実施	265件
うち全身麻酔件数	163件

● 2015年9月 県外出張件数 ●
件数 71件 延べ人数 128人

図書室便り(2015年9月受入分)

- 脳のMRI=MRI of the brain / 細矢貴亮(他編)
- 知っておきたい頸部 頭部動脈破格MRAとCTAの読影が楽しくなる / 内野晃 訪問看護業務の手引: 介護保険・医療
- 保険平成27年4月版 / 社会保険研究所(編)
You Tube でみる 身体診察 Physical examination via You Tube and textbook / 石井洋介(編)、コーチレジ(著)
- 佐々木敏の栄養データはこう読む! 疫
- 学研究から読み解く ぶれない食べ方 / 佐々木敏

編集室通信

紅葉もいい。食べ物も美味しい。少しばかり物悲しいこの季節。日本の四季は本当に素晴らしいとつくづく思う。そういえば祖母はこの季節に着物の虫干しをしていたように記憶している。孫たちは普段着ることのない晴れ着に袖を通し、裾をズルズルと引き摺りながら時代劇の“姫様”になって遊ぶ。そして叱られるのである。(にゃ〜ご)

《別冊・増刊号》

- 別冊医学のあゆみ iPS細胞研究最前線 疾患モデルから臓器再生まで / 長船健二(編)
 - 別冊医学のあゆみ 遺伝子医療の現状とゲノム医療の近未来 / 福嶋義光(編)
 - 臨床栄養別冊 栄養指導・管理のためのスキルアップシリーズ Vol.3CKD(慢性腎臓病)の最新食事療法のなぜに答える基礎編 / 中尾俊之(他編集)
- 《視聴覚資料》
- マイナンバー社内規定集〜7つのモデル規定・書式とわかりやすい解説付き〜 / 坂東利国

何でも吸収、何でも挑戦 20年

自分の殻を破れるのは自分自身

リング上でのパフォーマンスで一票差、惜しくも全国準優勝にとどまった3年前の「声と言葉のボクシング」大会。地元紙にも大きな写真つきで、「高知から生まれる新文学」として嶋崎ユリカさんたち三人の活躍が紹介された。いじめられっ子や自信を持ってない人たちへの応援メッセージを「言葉のボクシング」として贈るもので、「誰だって、秘めたエネルギーを持っている」「自分の殻を破ることができるのは自分自身！」と、感情をふりしぼり、大声で会場に向かって訴えた。

ときには心にゆとりを持つ時間も

何事もチャンスと捉え、このようなパフォーマンスなどの表現活動に挑戦し続け、「ありがたいことに色々なシーンで声をかけていただけるようになった」。いまは「ときには心にゆとりを持つ時間も大切に、続けていきたい」。それが、ユリカさんの趣味と呼ぶには余りにも玄人っぽいオフの過ごし方である。



ザ・テリーズのボーカル

薬剤師はもっと患者さんの近くへ

「病棟での仕事を勉強したい！」と、服薬指導などの病棟業務を専門的に学んだ大学院を卒業して近森会に就職した20年前。薬剤師はもっと患者さんの近くへという流れが開始したころで、その流れに乗り調剤室の外での仕事が増え始めた。

近森会では急性期から回復期まで通

して、折々に経験してきた。現在、オルソリハビリテーション病院では、「薬のこと全般を任せられ、ほとんどのスタッフと顔見知りでいられる距離の近さ」という、オルソ病院ならではの良さを感じている。患者さんのゴールは常に自宅であり、療養に欠かせない薬剤に関わる毎日には、やり甲斐とともに責任感も感じるという。

歌って踊れる薬剤師

この20年を振り返れば、仕事もプライベートも、「とにかく積極的に何でも吸収、何でも挑戦」の時代を長く過ごしてきた。この人物ルポ欄への最初の登場は17年前、「活発だけど控えめな理性派薬剤師」のお披露目だった。以来、近森正幸理事長の講演では、「歌って踊れる薬剤師」の愛称で呼ばれるごとく、折々の活動は印象深い。

夏のよさこい祭りも、市民ミュージカルもダンスも芝居も、あらゆる「表現活動」を精力的にこなし、医療の世界にとどまらない活動を続けてきた。活動を通して輪が広がり、職業も年代も様々な人たちと出会えた。経験してきたことは全て「心のこやし」となった。おかげで価値判断の幅が広がったように思うし、「人と人とのつながりの大切さ」を改めて実感できたという。

ご縁を大事に、根気よく

いちばん長い活動は、月いちの定期ライブ。高知市堺町にあるライブバー「PARADIGM(パラダイム)」で、昭和歌謡曲バンド「ザ・テリーズ」のボーカルとして70年代、80年代のヒット曲を歌って踊り、「誰もが楽しめるライブ」をモットーに、月二回の練習と月一回のライブというペースで、なんと15年目に突入している。

さまざまな活動は全て「ご縁」、自分を必要としてくれる人たちの気持ちに精いっぱい応えたい、それがいまの原動力になっている。そして根気強くも在りたい。仕事もオフもこの調子で、瞬間に時間が流れている。



▲土佐を元気に！「ドリームオペレッタ高知」では悪女に



▶市民ミュージカル「音の旅人」では「よさこい」の振付師を熱演(右端)



▲昨年行われた『現代地方譚2』アーティスト・イン・レジデンス須崎。オープニングアクトとして出演(撮影 Masa Takahashi)

CitRungs Tossa



土佐高知の柚子 (Citrus) × 強さ (strong) = CitRungs Tossa (シトラングストッサ)
 2014年に「フットサル日本一」を目指し発足した高知県精神障害者フットサルチーム。

一緒にボールを蹴ろう

近森病院総合心療センター
 作業療法士 田渕 裕子



「一緒にボールを蹴ろう」この一言で、障がいは関係なく、スポーツを通して人、そして、社会とつながっていく、挑戦する意欲の源泉、それがCitRungs Tossa。

現在 17名の選手が登録しており、

病院や施設のスタッフを中心に、技術指導には社会人チームの高知Uトラスターさんなどのサポートを受け、月2～3回の練習で汗を流しています。選手の大半はサッカー経験がなく、チーム加入をきっかけにボールを蹴り

始めた初心者ですが、抜群の“伸びしろ”で5月に行われた四国ブロック大会では初勝利。10月3日に行われた第一回ソーシャルフットボール全国大会(名古屋)では、四国選抜チーム(愛媛・徳島・高知のチームより選抜された選手で構成)“四国88(シコクエイティエイト)”として出場し、結果は残せませんでした。とてもよい記憶と経験と繋がりを残す機会となりました。

完熟にはまだまだですが、選手、スタッフ一人一人の個性が光る高知らしいチームとして成長していますので、興味のある方は一緒にボールを追いかけてみませんか？

チームの練習風景や活動内容はFacebookの方をご覧ください↓

<https://www.facebook.com/CitRungsTossa>

たぶち ゆうこ

障害者福祉サービスセンター ウェーブ

安全できれいな道づくり



7月から近森病院より委託を受け、廿代橋を中心に江ノ口川周辺の清掃を始めました。歩行者から車椅子の方まで安心して使えるよう、「安全できれいな道づくり」をコンセプトとして毎日奮闘しています。

ソフトボール大会

9月27日(日)

運動会

10月12日(月・祝)

優勝は内科チーム。今年は約440名が参加しました。

優勝はリハビリチーム！

